

野々池地区人協だより

事務局〈鳥羽小学校〉発行〈沢池小学校〉 第93号



足を運んでくださった皆さまと心が豊かになる時間を共有できたことに心より感謝申し上げます。

いただきました。

どたくさんの感想をい

「令和7年11月15日(土)
鳥羽小学校 体育館にて」

アンデス音楽を奏でる「アルポリビエント」をお迎えし、人権コンサートを開催しました。

ケーナ奏者の勝野勉さんは、明石市内で開催される市民講座での講師・ライブやイベント出演など多方面で演奏活動を行っています。

ケーナやサンポーニャとギターの響きがアンデスを感じさせる素晴らしいコンサートでした。

日ごる耳にすることの少ない音色に「感動して涙がとまらなかつた」「オリジナル曲の迫力に圧倒された」「ケーナを初めて見た。楽器の説明も良かった」「演奏と一緒に歌えて楽しかった」など

人権コンサート



●和坂校区●
地域がどうつながっていかかが話題の中心となった。集まるための時間やお金…地域連携で不登校を乗り越えた例もある。
今後、有料サポートも含め、人のつながり、組織づくりを考えていきたい。



●沢池校区●
自治会参加の減少や子ども会がほぼなくなっている現状で、地域のつながりをどうするかは課題。顔と顔のつながりが必要であるが、そのために何をするか、どう始めるかを話し合う。
コミュニケーションの場が必要。各団体同士がつながっていけば繁栄するのではないか。



●鳥羽校区●
みなで連携し、たくさんの方が行事に参加できている地域があることを知った。お互いを知ること、価値観を認めることを大切にしたい。



「グループワーク

各団体の発表を受け、感じたことを付箋に書いて出し合いました。校区ごとにわかれ、模造紙に貼っていきます。

今年度卒業の啓発員より

小川 由里子

啓発員活動ではたくさんの学びや気づきをいただきました。たいへん有意義な時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

荒島 美紀

啓発員として3年間活動させていただき、たくさんの事を知ることが出来ました。
これからも少しの気づきや知るところを大切に「みんなが幸せに過ごせるように」と思いながら過ごしたいと思います。本当にありがとうございました。

HYOGOヒューマンライツ 作品コンテスト



「優しさで明るく」

イラスト部門 最優秀賞

野々池中学校 柴田 結衣

令和8年2月21日(土)

「実践交流発表会」

鳥羽小学校「ミセン」にて実践交流発表会を開催しました。
助言者に明石市人権推進課 吉山 国芳様をお迎えし、8団体に発表をいただきました。
それぞれが抱える課題や団体の現状を共有するよい機会でした。

小久保1・3丁目自治会

【発表】若村 正順さん

●DVD視聴
「くうとしの」
■ワークショップ
「もしバナゲーム」



子ども会と自治会との関係が良好で、毎年合同で親睦旅行を企画している。
研修では、認知症への理解や人生会議の重要性、命と向き合う姿勢や自分の価値観を言葉にする大切さを学んだ。
今後も家族や地域の中で対話を重ね「いざという時に伝えられる社会」づくりを進めていきたい。

旭が丘自治会

【発表】坂井 茂樹さん

●DVD視聴
「災害から一人の命も取り残さないために 要配慮者の備えと避難行動」

高齢化が進んでいるためイベント開催が難しい。阪神淡路大震災があった日にちなみ、翌日に研修会を開催。
自分が障がい者の立場になった時どのように行動できるかを考える機会となった。



弁財天自治会

【発表】玉木 章司さん

●DVD視聴
「あなたのいる庭」



戸建てとマンションの混住化が進み、自治会入会が少ない。運営にあたっては役職に就く困難もある。
小学校の集団登校廃止により子ども会も廃止が進み、自治会行事の相談先がなくなってきた。研修には前向きな姿勢で参加。今後、研修での気付きをどう行動化するか。

鳥羽厚生館

【発表】月城 正博さん

■テーマ
「住民交流の拠点となる、地域に開かれた交流館をめざして」



福祉・人権・交流・子どもカフェなどの事業に取り組んでいる。
こどもカフェでは特に居場所づくりを目的としている。昨年できなかった子育て支援講座ができた。こども人権研修会では参加者が増加した。

和坂校区高年クラブ

【発表】永井 俊作さん

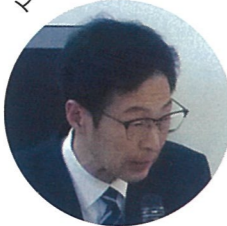
★講話
人権感覚をアップデート
「ひとつごと」「わがごと」へ



8団体210名で構成。
「いじめ」…苦痛を与えることはいじめである。
「ジェンダー」…身体、気持ちともに男性か女性で割り切れないことがあるという事を理解する。
「外国人」…互いの違いを認めることが大切。
「高齢者」…明石市内人口の26%が65歳以上。そのうち15%は認知症である。
交流の仕方や見守り活動の在り方が問われる。

神戸信用金庫

【発表】西明石支店 姫野 敬史さん



同和問題啓発委員会では、テーマを決め年10回研修を開催。災害・ゲートキーパー・認知症・性的マイノリティ・働きやすい職場などがテーマとして挙がる。
地域貢献活動では小学校のキャリア教育を支える「お仕事ノート」を実践。動物サポーターとして王子動物園のフロンティアやペンギンを支援する寄付金贈呈。今回の発表を機に、人権が街を豊かにすることを実感している。
安心して笑顔で暮らせる街になるよう取り組みを続けたい。

明南町子ども会

【発表】梅本 薫さん

●DVD視聴
「あなたのいる庭」



153世帯で構成。登校時の見守りもしている。研修では「知るこゝろ」の大切さを実感。
子どもたちを施設の中で支援するのではなく、地域をあげて子どもたちの幸せを支える環境が出来ればよいと思う。

西明石町子ども会

【発表】中岡 悠輔さん

●DVD視聴
「くうとしの」



63世帯で構成。自治会が子ども会にとっても協力的で、多く子どもが行事に参加し、よい経験をしている。研修では、高齢者や認知症の方との関わりを学んだ。DVDは動物がキヤストの物語のため、子どもたちが真剣に観ていた。

助言

明石市人権推進課

吉山 国芳

「よくぞ開催できた」という本音。開催にあたって企画された主催者も参加者も共にすばらしい。貴重な意見交流の場がある事が貴重。

意識調査をすると「人権」↓「怖い」「堅苦しい」といったイメージを持っていることがわかる。
アンコンシヤスバイアス（無意識の思い込み）は、まるでそうであるかのように誤った思い込みのこと。原因は個人ではなく社会のしくみにあるので、社会を変えていく意識が必要。

マイクログレッション（小さな攻撃性）を発すると、日ごろの苦勞が断ち切れられ蓋をされてしまう。これを変えるためには、発した人を攻撃したり、その人を変えようとするのではなく、社会にも原因があることを知ることが大事。どんな社会を作るのか。まずは集まり顔を合わせることに。

大人も友だちづくりをしよう。「人権研修会」を「子どもが笑顔になる会」と誘い、友だちの輪を広げていこう。

